

令和 4 年度第 3 回守山市地域包括支援センター運営協議会結果

1 開催日時、場所 令和 4 年10月31日（月）午後 6 時から 7 時30分まで
守山市福祉保健センター 3 階講習室

2 出席委員数 9 人／10人

3 議事内容

(1) 報告事項

ア 令和 4 年度上半期守山市地域包括支援センター事業実績について

(資料 1、資料1-1)

令和 4 年度上半期の地域包括支援センターの運営状況について報告しました。

(質問)

認知症高齢者の徘徊に対する取り組みとして、将来的に一般市民と徘徊訓練などを実施する予定はあるか。

(回答)

モデル的にビーコンを使った模擬訓練をしたことがあります。また、草津市で行われた徘徊高齢者の声かけ訓練を見学したこともあります。本市においては、認知症サポーター養成講座やキッズサポーター養成講座の中で声かけの手法などを伝えているため、今のところは徘徊訓練を実施する予定はありません。

(意見)

- ・多問題を抱える人が右肩上がりに増えていった場合にはシステムとしてチームを作る組織作りが必要、その段階に来ているのではないか。
- ・就労状況から、65歳～75歳という区切りは、時代に合っていないように感じる。年齢層の分析を厳密にした方が良いのではないか。

(2) 協議事項

ア 圏域地域包括支援センターの次期契約について(案) (資料 2～資料2-2)

第 2 回の地域包括支援センター運営協議会の意見や、法人との意見交換の内容などを踏まえ、次期契約の方向性を見直し、契約の変更点や方針の具体案を示しました。具体的には、①待機型のランチ設置ではなく、自治会等地域に出向くアウトリーチを強化すること、②契約方法は公募ではなく、随意契約の方向で進めること、③指定介護予防支援業務の新たな業務の委託、④基幹型と圏域包括との役割分担、人員配置などについて説明しました。

(意見)

具体的な人員については、「これから検討。」と聞いたが、想定人数で業務が回るか不安。想定している人員体制では、指定介護予防支援業務とアウトリーチは両立できないのではないか。せっかくケースワーク中心にやってきた守山市が、他市と同じように介護予防プランを作るための地域包括支援センターになるのではないか。基幹型包括の人員を減らす、圏域センター長を管理業務のみにするなどして、活動

できる職員数幅を増やしてはどうか。もう少し圏域の声を拾い上げながら、基幹と圏域とで調整をしてもらいたい。事務人員も、包括業務をしっかりカバーでき、専門職が業務に臨むことができるよう配置すべき。

(回答)

指定介護予防支援業務は、地域包括支援センターの法定業務でもありますので、運営上の課題解決を図る中、市も支援しながら実施していただける体制の構築に努めたいと考えています。現在、圏域包括がケアマネジャーを探していただくという手続きを経て、ケアプランの作成は0件という状況です。

事務職員については、業務の波や事業が詰まった時期に合わせて業務をしていただくなど、実際の稼働を計算し、配置をしたいと考えています。

(意見)

3 圏域で増員分の職員を採用できるのか、人員確保が不安。前倒し契約で研修体制を設けてもらえるのか。

(回答)

人員確保については懸念しているところです。できるだけ早く契約を締結し、採用準備期間を長く設けたいと思っています。

指定介護予防支援業務に関する研修については、請求事務を圏域で開始するのが令和6年5月からのため、次期委託開始後についても、基幹包括がフォローしながら業務を行いたいと考えています。4月からしっかり立ち上げができるよう、もう一度財政当局と確認・協議を行います。

(意見)

- ・ 支援の定義を具体的に決めていった方が良い。
- ・ 見直しのプロセスを入れ、軌道修正することができるようにしておくが良い。
- ・ AIの活用、住民がイーラーニングで自分でケアプランを作るようにサポートするなど、マンパワーの有効活用を将来的に考えていただけたら。
- ・ 業務量が増える中で、委託料の算定根拠を契約更新時に見直し、少なくとも収支の帳尻が合うものにしていただきたい。
- ・ 人員の確保は、ボランティアなど正規職員でなくてもいろいろ働き方の形態があると思うので、それを組み合わせていくなども一つのやり方ではないか。人材確保も含めて組織マネジメント、人材活用のマネジメントも深めていかないとけない。
- ・ 認知症高齢者については、要支援(認定)の時の関わりで、その後の経過が変わってくるため、困難ケースになる前に、誰かがどこかで問題を改善できるようになれば良い。ぜひ、要支援(認定)の人がきちんと関わりを持ってもらえるような状態になってほしい。
- ・ 広くキャッチするシステム、それを判定するチーム、重度対応チームなど、役割を分担し、3段階のシステムをつくるとよいのではないか。